

## 布の地の目およびはぎ枚数の影響

共立女短大 ○三木幹子 綾田雅子 奈良女大家政 丹羽雅子

＜目的＞ 前報において、はぎ枚数の異なるフレアスカートのドレープ性能の違い、並びに布の力学特性と縫い目の影響を明らかにした。あわせて、視覚及び着用による官能検査を行い、着用感とフレアの美しさに対する影響についても検討し、その結果、高ドレープ性能の新合繊を使用したスカートのドレープ性能についていくつかの問題が生じた。本報では、フレアスカートの、布の力学的性質に適合した構成法を見いだすために、スカートのシルエットと着用感に及ぼす布の地の目方向の影響を明らかにし、総合的な考察を加える。

＜方法＞ 試料には前報と同じ綿ブロード、ポリエステル羽二重、高ドレープ性能ポリエステル3種を用い、型紙の中心がたて糸方向になるように7種のフレアスカートを作製した。これらのスカートを前報で用いたスカートに加え計19枚とし、SD法により視覚及び着用官能検査を行った。視覚評価には35名、着用評価には41名の女子学生を被験者とした。また、人台にスカートを着装させ、写真撮影によりドレープ形状を測定した。

＜結果＞ 前報で問題となった高ドレープ性能ポリエステルをバイヤス方向で裁断したスカートでののはぎ目部分の巻き込み現象は、地の目をたて糸方向にする事によって見られなくなった。従って、視覚官能検査ではバイヤス方向よりもたて糸方向のスカートの方が高い評価を得、前報で最も評価の高かったポリエステル羽二重よりよい評価結果が得られた。綿ブロードはたて糸方向使いにしても評価は変わらず、羽二重はバイヤスの方が評価がよいという結果から、布のせん断特性と単位面積あたりの重量、はぎ目の曲げ、せん断特性から、適当な地の目方向とはぎ枚数を設定する必要のある事が明らかになった。